

◎観光文化部長（毛利文昭君）

白山市在住の外国人実習生の対策についてお答えします。

まず、市内の外国人住民数とそれぞれの工業団地周辺に住んでいる外国人数につきましても、平成30年5月31日現在で、白山市内の外国人住民数は1,161人であり、それぞれの工業団地周辺に住んでいる外国人数は、石川地区173人、笠間地区13人、宮保地区10人、出城地区62人、旭地区175人、郷地区34人、山島地区7人、蝶屋地区60人、湊地区31人、蔵山地区81人でございます。合わせて646人となると思います。

次に、外国人技能実習生と住民との融和を図るための対策と現状についてであります。

外国人技能実習生を含め、外国人住民も同じ地域住民との観点から、第2次総合計画では、基本構想の一つに、国籍などの異なる人々が互いの文化を認め合い、対等な関係を築いていく多文化共生の推進を掲げ、国際交流協会とともに、各種事業を展開しているところであります。

また、多文化共生の推進には、地域に密着することが大切なことから、公民館主催の行事には、市内の技能実習生などの外国人が参加し、交流が図られるようコーディネートしております。また議員の御質問の中にもありました、ことし1月28日に初めての試みといたしまして、外国人居住率が最も高い石川地区において、地元主体で実習生と地域住民とが参加する交流会を石川公民館で開催したところです。

当日は、総勢60名が参加し、実習生はごみや交通マナーを、地域住民は市の外国人状況等についてそれぞれ学んだ後、ベトナム料理で親睦を深めており、同地区ではこの機運を継続させるために、今年度も交流の企画を進めていると伺っております。

次に、外国人在住地区の住民と外国人実習生との交流会の開催について、市がもっと積極的にかかわってはいかがとの質問についてであります。石川地区のように住民が主体となることで、実習生と顔見知りとなる、例えば朝すれ違うときに挨拶をするようになったというそういう事例も聞かせていただいております。その後の地域行事にも参加しやすい雰囲気生まれていることから、こうした交流会の開催に当たっては、住民が主体となることが望ましく、市や国際交流協会は、市全域への意識啓発や交流の仲介、お手伝い等で、双方が交流しやすいようにサポートをしていまいりたいと考えております。